

起承転結～京都産業大学ラグビー

昨シーズンから、山下・三原の大駒が抜け前評判もイマイチ。下手したら入替戦覚悟なんて声も聞こえてきました。キャプテンは、映画「60万回のトライ」で記録された大阪朝鮮高級学校の最強時代のスクラムハーフ・梁正秋ですから、何かやらかしてくれるかと、ちょこっと期待。スタンドで応援を続ける私としては、弱気でシーズンを迎えました。

スタートは、10月5日・花園ラグビー場の第二グラウンド。Bリーグから昇格の摂南大学に辛勝(25対10)で最下位回避。翌週は、勢いのある近畿大学を突き放して(32対14)入替戦回避。今年のフォワード行けるんじゃない・・なんて見てたら、宝ヶ池で大阪体育大学を圧倒(51対19)し、これはこれは、ワレコワレコ・・スクラムの強い京産が復活です。



続いての相手は、強いと評判の天理大学。ここに勝てばホンマモン。鶴見の応援席も熱く熱く・・特にフッカーのご両親の熱い声援に応えたフィフティーンが、素晴らしいディフェンスで和製オールブラックスの波状攻撃を防いで大満足の勝利(29対14)で4連勝。

次勝てば優勝の可能性ありの同志社大学戦。「フー・アー・ウイ・ラララ・ドウシヤなんか負けるもんか～勝つぞ～かつぞ～勝つぞ～！」「そうだ～！」などと一昔前のコールを思い出して観戦。じえいじえ、29対27で勝っちゃいました。

こうなりゃ、あと2つ勝って優勝。全国大会も関東勢を倒して悲願の全国制覇。みんなで大西監督を胸上げしましょう。



翌週は、宝ヶ池で立命館大学を迎え撃つ。衣笠から草津に本拠を移したアウェーのリッツに対し、上賀茂本山に鎮座するホームチームのキョーサンが、大文字の「妙」に見守られた競技場で負けるわけないでしょ・・と思ったのも束の間、相手チームを研究して試合に臨む試合巧者の立命館の前になすすべなし。セットプレーは抑えられ、エリアも治められ、ハンドリング悪く、ディフェンスもダメダメで初の敗戦(15対28)でガッカリです。ただ、次の関学戦に勝利すれば、順位決定基準から優勝の可能性も有り、仮に敗戦しても2位で全国大会に出場できます。

さてさて、気分を入れかえての優勝決定戦。こりやまた悲惨な状態で、レフリーのオフサイドの判定に疑問だらけですが、エエトコなしで関西学院大学に13対33で敗戦。関西リーグ2位で全国大会に臨みます。

全国大会は、まずは花園で関東リーグ優勝の流通経済大学に圧倒(7対55)され、熊谷では関東対抗戦4位の慶応大学相手にスクラムトライもあげて善戦(21対52)するもここまで4連敗。





最終戦は、長居(金鳥スタジアム)で中央大学と対戦。泣いても笑っても、今シーズン最後の試合は、強いスクラムにドライビングモール、ディフェンスも良いし、展開も良い感じで、なんと両プロップもライン参加して走り回るし、バックス・フォワードが一体化した素晴らしいラグビーを見せて31対8。結果、終わりよければすべて良しで勝利しました。

地道なプレーでボールを前に進める中島、あっと驚くステップの森田、スタンドオフの金はグラバークickを自分でインゴールに持ち込む、高田はぶちかまし、森川は敵から羽交い絞めされても耐える、素晴らしいチームでしたね。やっぱり梁正秋のキャプテンシーが光っていたからこそですね。

今年も、シーズンを通じて大いに楽しませていただきました。来シーズンも頼みますよ。



平成26年12月29日記

Top

[トップ](#)
[↑](#)

Back

[戻る](#)



[なんだかなあ～京都産業大学ラグビ](#)

[二](#)